NewsLetter

日本サルコペニア・フレイル学会
Japanese Association on Sarcopenia and Frailty

第15号 2021.12

第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会報告

―2021.11.6・7　千里ライフサイエンスセンター―

第８回日本サルコペニア・
フレイル学会副大会長
川崎医科大学医学部
総合老年医学教授
杉本研

大会長　　楽木　宏実　（大阪大学大学院医学系研究科　老年・総合内科学　教授）
副大会長　　杉本　研　（川崎医科大学　総合老年医学　教授）

第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会は、COVID-19感染者数が全国的にやや減少するなか、現地開催とWEBによるライブ配信のハイブリッド開催となりました。

2021年11月6日・ 7日の2日間、大阪府豊中市の千里ライフサイエンスセンターにて教育講演、シンポジウム、優秀演題講演などを行うとともに、教育講演（Meet the Expert）と市民公開講座については11月19日までのオンデマンド配信とさせていただきました。

昨年の第7回では完全WEB開催となり、学会場で直接知識を得たり、参加された先生方と直接対面することが叶いませんでしたが、今回は2日間で300名程度の先生方に現地参加いただくことができ、通常とまではいかないまでも学会場での学会参加することの喜びを久しぶりに感じることができたのではないかと思います。WEBで参加された先生方も、現地でのディスカッションが盛り上がったことによりライブ感を味あわれたのではないかと思います。内容についても、ワシントン大学の今井眞一郎先生の特別講演を筆頭に、基礎から臨床まで非常に幅広くかつレベルの高いものであったとの感想をいただいております。今回は983名の皆様方に参加いただき、コロナ禍においても学術活動に対する熱意の高さを感じることができました。なお、現地にてご登壇いただいた先生方にはおかれましては、大会開催直前に開催方法を変更したために、会場内の音声の問題や質疑の際のマイクのハウリングなどでご不便をおかけしたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

最後に、大会の準備や運営にご協力を賜りました学会理事・監事の先生方、参加者の皆様、スポンサードシンポジウム、ランチョンセミナーや展示、広告等に協賛を頂きました企業の皆様に厚く御礼を申し上げます。

第8回学会大会報告参加報告

国立病院機構高知病院
リハビリテーション科
神野　麻耶子

令和3年11月6日・7日に第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会が大阪府千里ライフサイエンスセンターで開催されました。今回のテーマは「幸福長寿のためのフレイル研究の新展開」とされ、緊急事態宣言解除に伴う現地開催とWEBによる一般演題発表のハイブリッド形式で行われました。参加者は983名と非常に多くの方のご参加となり、フレイル、サルコペニア、ロコモの予防と治療法の確立につながる研究の進捗をface-to-faceでも共有できた学術的交流の場となりました。初日はワシントン大学の今井眞一郎先生による特別講演を皮切りに、社会的フレイル、フレイル・サルコペニアにおける新規薬物治療や基礎研究、高齢者外科手術や臓器障害との関連、栄養・運動療法の最新知見、オーラルフレイル、サルコペニア肥満など多岐にわたるテーマのシンポジウムが同時配信されました。Meet the Expert 、サルコペニア・フレイル指導士の活動、ランチョンセミナーや優秀演題プレゼンテーションが続き、2日目の荒井秀典先生による会長講演と「幸福長寿のためのフレイル・ロコモ講座」と題した市民公開講座で締めくくられました。
これまで、研究レベルに留まってきた面があるフレイル・サルコペニアの評価や治療が実臨床で実施され始め、先駆的な施設からはその試みや成果報告がなされました。また、コロナ禍が高齢者に与える影響などCOVID-19に関するリアルタイムな研究や、アイフレイルやガストロフレイルといったこれまでにない新しい分野のフレイルの提唱もありました。ご発表には会場のみならずオンラインからも質疑があり闊達な議論がされており、高齢者社会における本学会の重要性と多方面における活用の可能性を実感した二日間でした。

第9回日本サルコペニア･フレイル学会大会のご案内

学会テーマ 「異分野融合による新たなサルコペニア･フレイル対策」

第９回日本サルコペニア・
フレイル学会大会長
立命館大学
スポーツ健康科学部教授
真田　樹義

このたびは、第9回サルコペニア・フレイル学会大会の大会長を務めさせていただくこととなり、大変光栄に存じます。役員をはじめ関係の方々に心より感謝申し上げます。本学会大会のテーマは「異分野融合による新たなサルコペニア・フレイル対策」とし、特にフレイル予防に携わる医学、栄養学、運動・健康科学、心理学、社会学などの分野の関係者間の対話を深めることで、新しいサルコペニア・フレイル対策の創出に向けての礎となることを期待しております。

今般のコロナ禍では、外出自粛などにより高齢者の身体活動量が大きく減少しています。身体活動量の不足は、世界保健機関において死亡リスクに関連する主要な要因の１つとして取り上げられており、今後の高齢者のQOLや疾患の発症・重症化に大きくかかわってくると考えられます。フレイル対策として、身体活動にターゲットをあてた介入は比較的容易であることから、フレイル予防の第一の選択肢として有効であると考えられます。しかし、2020年4月、コロナの渦中で開始された「フレイル健診」は、十分に進められていないのが現状であり、高齢者の集いの場としての意義も奪われております。したがって、ポストコロナ社会においても実施可能な新たなフレイル対策が喫緊の課題であるといえます。また、身体活動を新たに開始するためには、心を動かす強い動機付けが必要であり、また周辺の社会環境の整備も重要であると考えられます。これを機に、身体的、精神的、社会的なフレイル予防に携わる異分野の専門家が知恵を出し合い、新しい生活様式の中でのフレイル対策について議論する必要があるのではないかと考えました。

今回、「マザーレイク」として知られている日本一大きな湖である琵琶湖を望む、滋賀県草津市の立命館大学びわこ・くさつキャンパスが会場となります。コロナ対策のためにキャンパスでのオンサイトとWEBとのハイブリット開催を検討しておりますが、キャンパスへは、新幹線京都駅から、公共交通機関とバス・タクシーを利用して約30分でお越しいただけます。多くの皆様にご参加いただけることを心より願っております。

サルコペニア・フレイル指導士に関するご報告とお詫び

日本サルコペニア・
フレイル学会認定指導士
制度委員会 委員長
国立長寿医療研究センター
佐竹　昭介

会員の先生方におかれましては、平素よりサルコペニア・フレイル指導士に関しご理解とご協力を賜りありがとうございます。

今年度は指導士制度が本稼働へ移行することに加え、事務局の移転作業が重なり、指導士を取得された先生方には連絡の不備やご質問への対応が遅れるなどご迷惑をおかけしてしまいました。この場をお借りして、お詫びを申し上げます。今後、速やかに対応ができるように改善を致します。引き続きご協力をお願い申し上げます。

本稼働への移行に伴い、制度の見直し等をいたしました。

このためご留意頂く点がございますので、以下の内容につきご確認をお願い申し上げます。

◆サルコペニア・フレイル指導士制度規則　第2版

サルコペニア・フレイル指導士制度が本稼働に移行したことに伴い、暫定期間の規則を削除しました。また、以下の4点につきご留意ください。

詳しくは、ホームページ上の「サルコペニア・フレイル指導士制度規則 第2版」をご覧ください。（http://jssf.umin.jp/pdf/jssf_systemrules_2021.pdf）

１）指導士の認定申請の期日変更

従来、4月1日～5月31日を指導士認定の申請期間としておりましたが、学会の会期（10月1日～翌9月30日）に合わせることになりました。指導士の認定申請は、毎年10月1日～11月30日に変更いたします。

２）指導士の更新時期の変更

上記に合わせ、認定の更新も以下のスケジュールといたします。本認定に移行された先生方の更新は下記のようになります。なお、更新審査等の期間として6カ月の認定期間を加え3月31日までとしていますのでご留意ください。

・指導士認定期間：2021年11月理事会承認後～2027年3月31日

1年目：2022年4月1日～2023年3月31日

2年目：2023年4月1日～2024年3月31日

3年目：2024年4月1日～2025年3月31日

4年目：2025年4月1日～2026年3月31日

5年目：2026年4月1日～2027年3月31日＞更新申請：2026年10月1日～11月30日＊審査期間：2026年12月～2027年1月（合否通知：2027年2月）

＊認定証送付：2027年3月（認定期間：2027年4月1日～2032年3月31日）

３）指導士の更新制度の変更

更新につきましては、単位制度を導入することに変更いたしました。

・更新時期までに下記の内容で30単位を取得すること

① 日本サルコペニア・フレイル学会大会への出席：5単位

② 同学会誌への論文掲載（筆頭著者に限る）：5単位

③ 同学会大会での筆頭発表者：5単位

④ 指定講演の受講：5単位*

＊1講演の受講につき5単位を付与するが、1回の学会大会への出席で取得できる単位は、出席による単位を含め15単位を上限とする。

＊受講時に受講証明書を一人1枚配布する。受講証明書の不正授受、不正譲渡があった場合は、その年に取得した単位は無効とする。

４）指導士資格取得の時限的緩和

下記の資格をお持ちの方に対し、時限的に資格取得の緩和を行うことになりました。

・東京都健康長寿医療センターが養成している介護予防運動指導員のうち、80時間の座学と実習を受け、指導員を指導する資格者と認定されている者は、2022年と2023年の認定指導士申請時に限り、以下の資格取得緩和を設ける。

（対象者）：下記(1)～(3)をすべて満たす者

(1) 2021年3月31日の時点で、すでに上記の資格認定を受けている者

(2) 制度規則第5条(1) (2)の要件を満たす者

(3) サルコペニア・フレイル学会に入会している者（期間は問わない）

（緩和要項）

(1) サルコペニア・フレイル学会大会に1回以上参加すること

(2) 認定試験に合格すること

(3) サルコペニア・フレイルに関する指導経験を要約して提出すること（800字程度）

(4) 審査料と登録料は、施行細則第3章第21条および第23条を適用する。

第7回ACSF参加報告

東京女子医科大学病院
リハビリテーション科教授・
診療部長
若林　秀隆

2021年11月5－6日に韓国Suwon Convention Centerで第7回Asian Conference for Frailty and Sarcopeniaがハイブリッド開催されました。

Keynote Lectureは、Linda P. Fried先生、Jürgen M Bauer先生、Kenneth Rockwood先生、Liang-Kung Chen先生、荒井秀典先生と、フレイル・サルコペニア領域で世界的に有名な先生ばかりで充実した内容でした。シンポジウムは12個あり、日本からも数多くの先生が演者や座長で参加していました。最後には一般演題の表彰があり、日本からは鈴木瑞恵さんがポスターアワードを受賞されました。韓国の先生は一部現地参加されていましたが、その他の国の方はオンライン参加だったと思われます。約300名の参加がありました。来年の開催日時、場所はまだ確定していませんが、シンガポールでの開催が検討されています。

第12回ICFSRのご案内　April 20-22, 2022 Boston, MA, USA

The 12th International Conference on Frailty and Sarcopenia Researchは2022年4月20－22日にアメリカ、ボストンでハイブリッド開催予定です。抄録締め切りは2022年2月1日です。https://frailty-sarcopenia.com/

書籍紹介 『リハ薬剤マネジメント』

リハを行っている患者では、疾患の二次予防として様々な薬物療法を行うことがあり、ポリファーマシーとなりやすく、薬物有害事象の発現が懸念されます。薬剤起因性老年症候群の代表的な症状である、抑うつは活動性の低下、ふらつき・転倒は自信喪失や転倒恐怖から生活機能低下、排尿障害・尿失禁はフレイルとの関連が報告されています。更に、便秘は食欲低下を招き、それにより低栄養からサルコペニア・フレイルのリスクが上がります。薬剤によるリハへの影響について経時的に評価・検討することは、サルコペニア・フレイル対策においても非常に重要です。

株式会社エス・エム・エス
ヘルスケア事業部
下平 絵理子

本書では、リハ薬剤マネジメントの基本的な考え方やプロセス、薬剤起因性老年症候群に関連する薬、セッティング別のリハ薬剤マネジメントの実践・ケースレポートというように、第一線でご活躍の薬剤師が執筆されており、リハ薬剤実践のための手引書となっています。
これからリハ薬剤マネジメントを実践していきたいと考えている薬剤師には、基本的な知識や考え方から、リハ薬剤を実践するための仲間づくりにも役立つ情報などが満載です。また、看護師や管理栄養士、セラピスト、歯科衛生士には、害となる可能性の薬剤に関してや、薬剤師の視点などの理解も深まり、多くの気づきに繋がります。リハと薬剤の距離を近づけた支援を目指す一助となるため、リハに関わる多くの職種の方に手に取っていただきたい一冊です。

一般社団法人 日本サルコペニア・フレイル学会
E-mail：maf-jasf@mynavi.jp　HP：http://jssf.umin.jp/index.html
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550　FAX：03-6267-4555